

「アソシエーションA・I」現地研修会の記録

令和元年度 アソシエーションA・I (一宮地区)

一宮土木建設事務所、一宮土木研究会、愛知県測量設計業協会の三者が一堂に会し、良質な社会資本整備を考えるための現地研修及び意見交換会を行いました。

■日 時：令和2年1月21日（火） 13:30～16:30

■場 所：現地研修・・・犬山市大字前原地先 一級河川新郷瀬川（令和元年度 緊急防災対策河川工事（2号工）他）
意見交換会・・・犬山市体育館 2F 多目的室

■参加者：79名（一宮建設事務所 夜陣次長始め6名、一宮土木研究会 37名、愛知県測量設計業協会 36名）

【研修概要】

今回の研修対象となる主な工事は、新郷瀬川の河川断面拡幅に伴う海道橋の架替え工事に係る右岸橋台工及び橋脚部仮設土留工及び伏越し工等です。愛測協会員が従事した設計業務の成果に基づく工事の現場を見学し、施工の際確認された課題、実際に行った現場対応、さらに施工者からの提案について活発な意見交換を行いました。事業（工事）を円滑に進めるうえで、設計者に求められる‘より良い設計’を行うために大変有意義な研修となりました。

■発注者：一宮建設事務所

■設計者：愛知県測量設計業協会会員（株式会社 中部テック）

■施工者：一宮土木研究会会員（小島施設株式会社）

■施設諸元：海道橋・・・上部工（橋長43.0m、全幅7.7m、2径間連結PC床版橋）
下部工（逆T式橋台：左岸側全高6.8m、右岸側全高5.5m）
張出式橋脚：全高10.6m）

基礎工（場所打ち杭・杭径φ1000mm～φ1200mm）

伏越し工・・・函渠工（場所打ち構造 総延長56.52m、□800mm×800mm）

マンホール工（左岸側：全高6.6m・□1.4m×1.7m、右岸側：全高6.95m・□1.7m×1.9m）

取水樋管工・・・管水路工（FRPM管φ600mm、DCIP管φ600mm）



研修会場

【研修内容】

1. 概要説明等（於：犬山市体育館2F 多目的室）

一宮建設事務所 夜陣次長、一宮土木研究会 伊貝会長より開会のご挨拶をいただき、続いて一宮建設事務所 丹羽河川整備課長より新郷瀬川の改修事業の概要の説明をいただきました。現場移動に先立ち、施工者 小島施設(株) 久保田氏による今年度工事の概要説明の後、小島施設(株)及び一宮土木研究会 高矢委員長より対象工事における設計に関する質疑事項をご説明いただきました（質疑事項は下記4項目）。

質疑事項①：伏越し工・・・場所打ち函渠工（内空寸法800mm×800mm）における内型枠・支保工撤去の施工性を踏まえた設計について

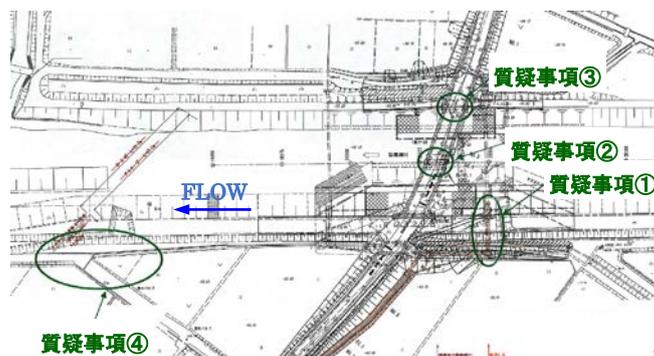
質疑事項②：橋脚工・・・仮設土留工における鋼矢板打設時における高止まりについて

質疑事項③：橋台工・・・支承周りの円筒型枠補強筋と橋座補強筋の干渉について

質疑事項④：取水樋管工・・・詳細位置不明な地下埋設の支障物件について

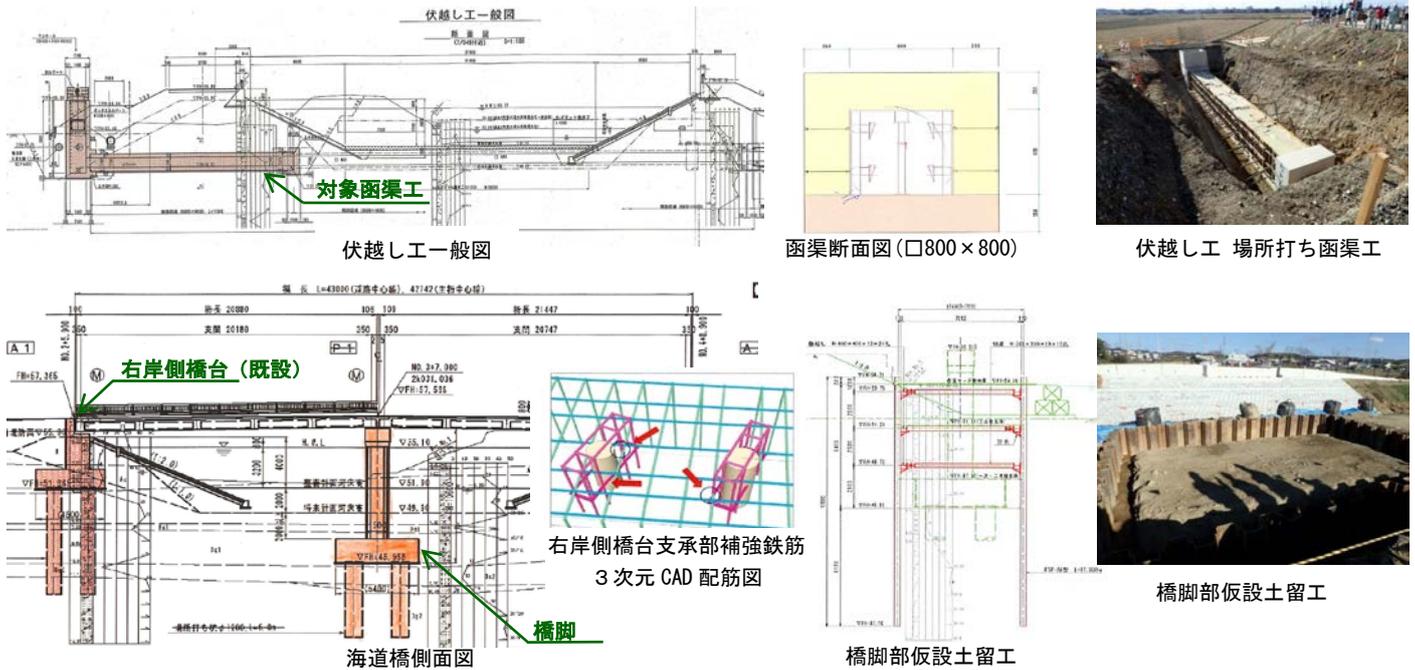


一宮建設事務所 夜陣次長



2. 現地見学（国道 41 号より新郷瀬川上流側約 1.5km 付近 海道橋）

伏越し工（函渠工）及び海道橋の橋脚部仮設土留工等の工事現場を見学しました。



3. 意見交換会（於：犬山市体育館 2 F 多目的室）

設計者（株）中部テック 永留氏より設計概要が説明された後に前述の各質疑事項について意見交換を行いました。質疑事項①については狭隘空間での型枠工・支保工撤去を伴う場所打ち函渠工への二次製品の適用等、質疑事項②については調査結果の設計上の評価や採用工法の適性、設計上必要とされる調査ボーリング実施数量や地域特性を考慮した鋼矢板の全損率、質疑事項③については過密配筋での鉄筋の干渉に対する照査や3次元設計の有効性、質疑事項④については設計時における試掘実施の重要性などについて意見が得られました。また、‘ICTの現状及び今後’についても質疑応答が行われました。



意見交換会

最後に一宮建設事務所小野口企画調整監より意見交換会の主テーマとなった各質疑事項に関する講評並びに建設業における今後の動向を踏まえたご意見等をいただき、発注者、施工者及び設計者の三者が今後もより一層、協力して地域の社会資本整備を担っていかねばならないことを再確認することができました。



一宮建設事務所 小野口企画調整監

アソシエーション A・I 一宮地区 アンケート結果

